16古今著聞集（橘成季）

、式部大輔朝臣、重病をうけて、たのみ少なくａ見えければ、母、吉にまうでて、七日籠りて、「このたび助かりがたくは、すみやかに①わが命にめしかふべし。」と申して、七日にみちける日、幣のでにかきつけりける、

　かはらむといのる命はをしからでさてもわかれんことぞ〔　　 　〕

かく詠みてたてまつりけるに、やありけん、挙周が病よくなりにけり。母下向して、喜びながらこのさまをかたるに、挙周いみじく嘆きて、「いきたりとも、母を失ひては何のいさみかｂあらん。かつは不孝の身なるべし。」と

生きがい

さしさわりなく

ｃ思ひて、住吉にまうでて申しけるは、「母我にかはりて命終はるべきならば、速やかにもとのごとくわが命をめして、母をたすけさせへ。」と泣く泣く祈りければ、神あはれみて御たすけやありけん、母子ともに事ゆゑなく侍りけり。

（巻第八）

参詣して帰り

＊語注

＊住吉…大阪市住吉区の住吉大社。

＊御幣…神道の祭祀で、捧げられる、細長い紙をくしにはさんだもの。

＊しで…御幣の垂れている部分。

問１　＝　線部ａ「見え」、ｂ「あら」、ｃ「思ひ」の活用の行と種類、文中での活用形を答えよ。

ａ＝〔　　〕行〔　　　　　　〕活用 〔　　　〕形

ｂ＝〔　　〕行〔　　　　　　〕活用 〔　　　〕形

ｃ＝〔　　〕行〔　　　　　　〕活用 〔　　　〕形

問２　――線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　私はもう長生きできそうにありません

イ　私の命を代わりにお取りください

ウ　私が命を買うことにいたします

エ　私は今にも死んでしまいそうです

問３　文中の〔　　〕には形容詞「かなし」が入る。適当な形を次から選び、記号を◯で囲め。

ア　かなしく　　イ　かなしき　　ウ　かなしかる　　エ　かなしけれ

問４　本文の主題に合致するものを次から二つ選び、記号を◯で囲め。

ア　母と子の深い情愛　　イ　親不孝なふるまい

ウ　住吉大社のたたり　　エ　和歌の神秘的な力

オ　重い病の恐ろしさ

【解答】

問１　ａ＝ヤ〔行〕下二段〔活用〕・連用〔形〕

　　　ｂ＝ラ〔行〕変格　〔活用〕・未然〔形〕

　　　ｃ＝ハ〔行〕四段　〔活用〕・連用〔形〕

問２　イ

問３　イ

問４　ア・エ

現代語訳

　式部大輔大江匡衡朝臣の息子、式部権大輔挙周朝臣が、重病にかかり、治る見込みが少なそうだったので、母の赤染衛門は、住吉神社に参詣して、七日間籠って、「このおり（病が）助かる見込みがないのならば、すぐさま私の命を代わりにお取りください。」と申し上げて、七日参籠の期限のあける日、御幣の垂れている部分に書きつけまして、

　　かはらむと…＝身代わりになろうと祈る（我が）命が惜しいのではなくて、それでも（結局は）死に別れることが悲しい。

このように詠んで差し上げると、神感があったのだろうか、挙周の病がよくなってしまった。母は参詣して帰り、喜びながらこのさまを語ると、挙周はひどく悲しんで、「私が生きたとしても、母を失っては何の生きがいがあるだろうか。一方では不孝の身になるでしょう。」と思って、住吉神社に参詣して申し上げるには、「母が私に代わって命を終えるつもりならば、すぐさまにもとのように私の命をお取りくださり、母をお助けください。」と泣く泣く祈ったので、神は気の毒に思って救ってくださったのだろうか、母子ともにさしさわりなくございました。

ポイント

問３　和歌の音数から、四音の語が入るはず。かつ、係助詞「ぞ」の結びなので、連体形となる。